

緊急被ばく医療・DMAT派遣スタッフ

天野 尋暢 [医師]	池田 拓広 [医師]	石川 暢久 [医師]
稲葉 俊哉 [医師]	今川 潤 [医師]	岩崎 泰昌 [医師]
上田 健 [医師]	上村健一郎 [医師]	恵美 学 [医師]
勝谷 慎也 [医師]	神谷 研二 [医師]	木村 昭郎 [医師]
小林 美恵 [医師]	坂井 晃 [医師]	貞森 拓磨 [医師]
田代 聡 [医師]	田中 信弘 [医師]	谷川 攻一 [医師]
田村 朋子 [医師]	津村 龍 [医師]	永田 靖 [医師]
浜井 洋一 [医師]	平田大三郎 [医師]	廣橋 伸之 [医師]
細井 義夫 [医師]	松井 啓隆 [医師]	松浦 伸也 [医師]
丸山 博文 [医師]	三隅 啓三 [医師]	溝岡 雅文 [医師]
三原圭一郎 [医師]	三原 祥嗣 [医師]	森野 豊之 [医師]
安永晋一郎 [医師]		
飯塚 大輔 [放射線専門家]	鈴木 文男 [放射線専門家]	
畝井 浩子 [薬剤師]		
飯干 亮太 [看護師]	石井希世子 [看護師]	井上 隆治 [看護師]
梅田 昌也 [看護師]	大内 純子 [看護師]	越智 康弘 [看護師]
音谷 順子 [看護師]	河村 明江 [看護師]	木元奈津子 [看護師]
家護谷五月 [看護師]	佐々 智宏 [看護師]	佐藤 陽子 [看護師]
島田 輝英 [看護師]	高柳 麻紀 [看護師]	竹岡 直子 [看護師]
西中カフミ [看護師]	西村 裕子 [看護師]	原 茉依子 [看護師]
古田 高明 [看護師]	持田 耕平 [看護師]	山田 裕紀 [看護師]
相田 雅道 [診療放射線技師]	穉山 雄次 [診療放射線技師]	
安部 伸和 [診療放射線技師]	河合信太郎 [診療放射線技師]	
河原 大輔 [診療放射線技師]	木口 雅夫 [診療放射線技師]	
久米 伸治 [診療放射線技師]	隅田 博臣 [診療放射線技師]	
高橋 佑治 [診療放射線技師]	西丸 英治 [診療放射線技師]	
濱岡 晋吾 [診療放射線技師]	藤岡知加子 [診療放射線技師]	
山岡 秀寿 [診療放射線技師]		
菅 慎治 [技術職員]	笹谷 晋吾 [技術職員]	
東 久哉 [事務職員]	岡田 克己 [事務職員]	岡門 宏治 [事務職員]
沖田 規剛 [事務職員]	小田 繁行 [事務職員]	河村 敦 [事務職員]
兒玉 二郎 [事務職員]	迫 和弘 [事務職員]	佐々木雅英 [事務職員]
下田 保弘 [事務職員]	志和 充将 [事務職員]	立目 良 [事務職員]
高屋 賢司 [事務職員]	鳥山 剛 [事務職員]	内藤 秀志 [事務職員]

仲屋 圭太 [事務職員]	西岡 照夫 [事務職員]	西田 雅彦 [事務職員]
野崎 和明 [事務職員]	林 茂雄 [事務職員]	原 圭一 [事務職員]
藤井 武志 [事務職員]	藤岡 孝男 [事務職員]	藤本 利夫 [事務職員]
堀 清隆 [事務職員]	松尾 浩士 [事務職員]	松森 晃 [事務職員]
都田 賢吾 [事務職員]	森川 敏昭 [事務職員]	森根 健博 [事務職員]

復興支援ボランティア参加学生

赤澤直樹 [総合科学部]	新居広大 [総合科学部]	石原 遥 [総合科学部]
榎本咲良 [総合科学部]	蛭原由貴 [総合科学部]	倉内悠人 [総合科学部]
武内康佳 [総合科学部]	寺本芳瑛 [総合科学部]	富吉巨哉 [総合科学部]
永井千晶 [総合科学部]	松本 渚 [総合科学部]	秋月優実 [文学部]
足立祐一 [教育学部]	井上竜基 [教育学部]	岡村紗季 [教育学部]
鬼村はるか [教育学部]	笠井礼志 [教育学部]	河村栄二 [教育学部]
楠本康博 [教育学部]	酒井麻未 [教育学部]	佐取祐多 [教育学部]
伊達文香 [教育学部]	出口友絵 [教育学部]	野中真理子 [教育学部]
福澤佳奈 [教育学部]	本田 彰 [教育学部]	増木綾乃 [教育学部]
宮崎愛弓 [教育学部]	森 俊樹 [教育学部]	山田 薫 [教育学部]
横矢清人 [教育学部]	潘楚水 [教育学部]	Cathy Su Lin [教育学部]
岩部仁美 [法学部]	島 智里 [法学部]	傳田みゆ菜 [法学部]
藤本尚子 [法学部]	吉永美穂 [法学部]	与那城迪子 [法学部]
一木 星 [経済学部]	大森将史 [経済学部]	富家 紬 [経済学部]
鈴木久美子 [理学部]	一ノ瀬麻由 [医学部]	酒井真央 [医学部]
城下由衣 [医学部]	吉浦恵美 [医学部]	阿部 誠 [工学部]
小西志歩 [工学部]	斉藤涼介 [工学部]	三好佑季 [工学部]
安田祝人 [工学部]	山西 眸 [工学部]	加藤 愛 [生物生産学部]
藤本裕人 [理学研究科]	藤原将智 [理学研究科]	橋平耕一 [工学研究科]
板谷憲志 [国際協力研究科]	植田 涉 [国際協力研究科]	
加藤智威 [国際協力研究科]	高橋大海 [国際協力研究科]	
中里春菜 [国際協力研究科]	新谷 綾 [国際協力研究科]	
原田朋枝 [国際協力研究科]	周楊措 [国際協力研究科]	
Azam Md Golam [国際協力研究科]	Mwanza Gabriel [国際協力研究科]	
Nzeyimana Jean Claude [国際協力研究科]	Piya Luni [国際協力研究科]	
Sheikh Farid [国際協力研究科]	Shrestha Sumanlal [国際協力研究科]	
Singh Mrinila [国際協力研究科]	Thlang Sorya [国際協力研究科]	
Bektursunov Mirlan [国際センター]		

あとがき

平成 23 年 3 月 11 日、未曾有の東日本大震災が東日本一帯を襲った。引き続いて発生した東京電力福島第一原子力発電所事故によって大量の放射性物質が環境中に放出され、事故から 2 年を迎える今も被ばくの不安は消えない。

今回の災害発生を受けて広島大学は、緊急被ばく医療をはじめさまざまな支援に大学を挙げて取り組んでいる。とりわけ緊急被ばく医療に関しては、三次被ばく医療機関として放射線医学総合研究所と共に中心的な役割を担ってきた。緊急被ばく医療関係の派遣者だけでも延べ 1,300 人を超える。

本書は、この 2 年間に支援に携わった広島大学教職員・学生のうち 55 人の手記をまとめた。限られた紙幅ではあるが、それぞれの軌跡と思いが率直につづられている。

広島大学は昭和 52 年、原爆被爆の諸相を自然科学、人文科学の各分野から総合的に記録した「原爆と広島大学『生死の火』学術編」を刊行した。その意義を当時の竹山晴夫学長は次のように記している。

「それは被爆犠牲の上に建設された学園にいるものとして、死没者への追悼の情の一つの表われでもあるとともに、学問が人間存在の窮極的な福祉に仕えるべきものである以上、人類史上決して忘れ去ることのできない原爆被災をわが大学の学問的営みの内的原点としてあらためて見据えようとするためでもある」

この記録集の目的も、この間の取り組みを見つめ直し、より良い支援につなげていくことである。原爆被災を「学問的営みの内的原点」としつつ育んできた広島大学の知と経験が、福島はもとより各地で被災された方々のために役立てば、と切に願う。

編集委員会は神谷研二緊急被ばく医療推進センター長を委員長に、財務・総務室総務グループリーダー山根清、広報グループリーダー和木光江、医療政策グループリーダー林茂雄、病院特命広報・調査担当役の山内雅弥が委員として実務作業を行った。緊急被ばく医療推進センターの東久哉主査には、現地活動写真の提供などお世話になった。表紙デザインは教育学部 第四類造形芸術系コース 2 年、田丸治樹さんが快く引き受けてくれた。心から感謝申し上げる。

なお、本文中の職名は各執筆者の表記に従った。不揃いになった点は編者の責任である。お許しいただきたい。

平成 25 年 3 月 1 日

編集委員会 山内 雅弥

東日本大震災・福島原発災害と広島大学

2013 (平成 25) 年 3 月 11 日 発行

発行者 広島大学
〒739-8511 東広島市鏡山一丁目 3 番 2 号
TEL : 082-422-7111 (代表)

発行所 株式会社 溪水社
〒730-0041 広島市中区小町 1 - 4
TEL : 082-246-7909 / FAX : 082-246-7876
E-mail : info@keisui.co.jp